

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ①②④

ヤマトシジミ

Corbicula japonica Prime

マルスダレガイ目 シジミ科

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 裸長 3 cm 程の二枚貝で、丸みを帯びた三角形をしている。光沢のある黒色の殻皮を持ち殻表には規則的な輪肋がある。
- ❖ 分布の概要 河口域の砂泥地に生息しているが限定的。かつては陸前高田市の古川沼に多産したとされる。
- ❖ 生息状況 近年実施されている干潟の環境調査では発見されておらず、県内全域で生息状況は悪化している。古川沼ではチリ地震津波を境に見られなくなったが、近年の調査で新鮮な死殻が確認されている。ただし近縁の外来種の可能性があり、詳細な調査が求められる。
- ❖ 脊威 河川改修による生息環境の改変および近縁の外来種の侵入による交雑のおそれ。

(高橋 一成)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②③

オオノガイ

Mya (Arenomya) arenaria oonogai Makiyama

オオノガイ目 オオノガイ科

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 白い卵型をした殻長 10cm ほどになる大型の二枚貝で、水管が太く長く突き出る。左殻にへら状のじん帯受けを有する。
- ❖ 分布の概要 海岸部の湾奥部の砂泥地に生息しているが限定的。東日本大震災以前は陸前高田市の古川沼や宮古市の津軽石川河口干潟等に多産していたが、震災後個体数が激減し現在も回復していない。
- ❖ 生息状況 湾奥部の比較的水深の浅い海域や干潟に生息するが、リアス式海岸が発達した本県においては、本種の好むような砂泥質の環境が少なく、生息基盤は脆弱である。
- ❖ 脊威 護岸工事や埋め立てによる生息環境の消失。
- ❖ 文獻 1. 松政正俊ほか (2023) 、2. 阿部博和ほか (2020a) 、3. 阿部博和ほか (2020b)

(高橋 一成)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ヤマトクビキレガイ

盤足目 クビキレガイ科

Truncatella pfeifferi Martens

環境省 なし

- ❖ 形態 殻長 6 ~ 7 mm になり、黄褐色で、殻表には通常縦肋があるが、縦肋が消失する個体もある。若いうちは細長い円錐形をしているが、成長になると上方の螺層を失って 3 ~ 4 層の円筒形になる。
- ❖ 分布の概要 海岸付近の陸地に生息しており、陸前高田市内の数カ所で生息を確認している。本種の生息に適した環境は限られており、分布は極めて限定的。
- ❖ 生息状況 海岸の潮上帯から飛沫帶の打ち上げゴミや転石の下などでみられる。既知の生息地においても個体群規模が小さく、存続基盤は脆弱である。
- ❖ 脊威 護岸工事や埋め立てによる生息環境の消失。
- ❖ 特記事項
- ❖ 文獻 4. 戸羽親雄 (2009)

(高橋 一成)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

クリイロカワザンショウ

Angustassiminea castanea (Westerlund)

盤足目 カワザンショウ科

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 裸長 4 ~ 5 mm ほど。赤褐色から茶褐色でやや高い塔型をしている。
- ❖ 分布の概要 海岸部の河口付近に生息しており、宮古市の津軽石川河口や陸前高田市の古川沼で確認されている。本種の生息に適した環境は限られており、分布は極めて限定的。
- ❖ 生息状況 河口付近の汽水域のヨシ原に生息し、泥や転石、流木の表面でみられる。本県沿岸部には大きな干潟を形成するような大河川はないため、生息適地は中小河川の河口部に点在する状況である。そのため、既知の分布地においてもそれぞれの個体群規模が小さく、生息基盤は脆弱である。
- ❖ 脊威 護岸工事や埋め立てによる生息環境の消失。
- ❖ 文獻 1. 松政正俊ほか (2023) 、4. 戸羽親雄 (2009) 、5. 阿部博和ほか (2020c)

(高橋 一成)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

ヨシダカワザンショウ

Angustassiminea yoshidayukioi (Kuroda)

盤足目 カワザンショウ科

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 裸長 3 mm ほどでカワザンショウ科の種としては小型。黄褐色から赤褐色で螺層のふくらみが強い。
- ❖ 分布の概要 海岸部の河口付近に生息しており、宮古市の津軽石川河口で確認されている。本種の生息に適した環境は限られており、分布は極めて限定的。
- ❖ 生息状況 河口付近の汽水域のヨシ原に生息し、泥や転石、流木の表面でみられる。本県沿岸部には大きな干潟を形成するような大河川はないため、生息適地は中小河川の河口部に点在する状況である。そのため、既知の分布地においてもそれぞれの個体群規模が小さく、生息基盤は脆弱である。
- ❖ 脊威 護岸工事や埋め立てによる生息環境の消失。
- ❖ 文獻 5. 阿部博和ほか (2020c)

(高橋 一成)

準絶滅危惧 (NT)

選定要件 ②

クビキレガイモドキ

Cecina manchurica A.Adams

盤足目 イツマデガイ科

環境省 準絶滅危惧

- ❖ 形態 裸長 5 mm ほどで殻は薄く、黄褐色～黒褐色の殻皮を持つ。成貝になると上方の螺層を失って 3 ~ 4 層の円筒形になる。
- ❖ 分布の概要 海岸付近の陸地に生息しており、陸前高田市内で分布を確認している。本種の生息に適した環境は限られており、分布は極めて限定的。
- ❖ 生息状況 海岸の潮上帯から飛沫帶の打ち上げゴミのある転石下などでみられる。ヤマトクビキレガイと同所的に見られることもあるが、同種より少し海から離れた場所にいることが多い。既知の生息地においても個体群規模が小さく、存続基盤は脆弱である。
- ❖ 脊威 護岸工事や埋め立てによる生息環境の消失。
- ❖ 特記事項
- ❖ 文獻 6. 安藤保二・波部忠重 (1981) 、7. 湊宏 (2003)

(高橋 一成)